

ブルガリア月報 [2014年5月]

平成26年6月
在ブルガリア日本国大使館

概観

【政治・社会】

- ・25日、ブルガリアにおける欧州議会選挙が実施され、全17議席のうち、GERBが6議席、「ブルガリアのための連合（BSP）」が4議席、MRFが4議席、「検閲のないブルガリア」が2議席、改革派ブロックが1議席を獲得した。
- ・30日、国民議会は、GERBにより提出された4回目の内閣不信任案（エネルギー政策の失敗に関するもの）を否決した。

【経 済】

- ・15日発表の国家統計局の暫定データによると、2014年度第1四半期の名目GDPは159億1,800万レヴァであり、前年同期比1.1%、前期比0.2%の成長となった。
- ・14日、国家エネルギー・水規制委員会のボエフ委員長は、2008-2012年の期間における3つの送電会社の監査の結果、2,700件近くの行政手続違反が見つかった、と発表した。

【我が国との関係】

- ・4月29日から5月1日にかけて、土井国土交通大臣政務官がブルガリアを訪問し、ファンダコヴァ・ソフィア市長や国民議会関係者と会談した。
- ・22日から26日にかけて、ポポヴァ副大統領は日本を訪問し、安倍内閣総理大臣への表敬訪問、伊吹衆議院議長及び山崎参議院議長との会談等を行った他、皇太子殿下に接見した。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

(1) 欧州議会選挙

◆欧州議会選挙の最終結果

- ▶25日、ブルガリアにおける欧州議会選挙が実施された。
- ▶28日夜、中央選挙管理委員会は各党の獲得票数、得票率、獲得議席数の最終結果を発表した。結果は以下の通り。また、投票率は36.15%となった。

	獲得票数	得票率	獲得議席	増減
GERB	680,838	30.4%	6	+1
「ブルガリアのための連合（BSP）」	424,037	18.93%	4	±0
MRF	386,725	17.27%	4	+1
「検閲のないブルガリア」	238,629	10.66%	2	-
改革派ブロック	144,532	6.45%	1	-

◆欧州議会選挙の当選議員の発表

▶30日夜、中央選挙管理委員会は17名の当選確定議員リストを発表した。当選者は以下の通り。なお、現職欧州議員の再選は6名となった。

▶GERB(欧州議会会派:欧州人民党(EPP)): 6議席

トミスラフ・ドンチェフ(国会議員, 元副首相・欧州資金担当相)

アンドレイ・コヴァチェフ(欧州議員)

マリア・ガブリエル(ネデルチェヴァ)(欧州議員, 元政治アナリスト)

ヴラディミル・ウルチェフ(欧州議員, 元エンジニア)

エヴァ・パウノヴァ(欧州議員補佐官, GERB欧州議会まとめ役)

エミル・ラデフ(国会議員)

▶「ブルガリアのための連合」(BSPが中心の左派連合)(欧州議会会派:社会民主進歩同盟(S&D)): 4議席

モムチル・ネコフ(同連合候補最年少。PHD候補学生)(注:名簿順位が投票用紙の政党番号「15」と同じであったことによる影響が指摘されている。選択投票の得票率8.05%を集め、名簿第1位を上回った。)

セルゲイ・スタニシェフ(国会議員, BSP党首, PES代表, 元首相)(選択投票得票率6.61%)

イリヤナ・ヨトヴァ(欧州議員)

ゲオルギ・ピリンスキ(元国民議会議長, 元外相)

(注:名簿第1位のスタニシェフ候補が当初の表明通り辞退する場合は、名簿第4位のペタル・クルムバシエフ候補(4月末に国民議会議員辞職)が繰り上げ当選の見込み)

▶MRF(欧州議会会派:欧州自由民主同盟(ALDE)): 4議席

フィリス・フェスメノヴァ(欧州議員, 元国会議員)

ネジュミ・アリ(国防次官, 元欧州議員, 元国会議員)

イルハン・キュチュク(MRF青年支部長)

イスクラ・ミハイロヴァ(環境・水大臣)

(注:名簿第2位のデリヤン・ペエフスキ候補(昨年6月の国家保安庁(SANS)長官任命が反政府抗議行動を引き起こした)は、選挙後の記者会見で欧州議員を辞退する旨発表し、名簿第5位のミハイロヴァ候補の当選が確定した)

▶「検閲のないブルガリア(BWC)」2議席
ニコライ・バレコフ(BWC党首, 元テレビショー司会者)

アンゲル・ジャンバツキ(VMRO副党首)

▶「改革派ブロック(RB)」1議席

スヴェトスラフ・マリノフ(欧州議員, DSB副党首)(選択投票の得票率27.1%を集め、名簿第1位のクネヴァ候補を上回った)

▶選択投票の獲得票数

選択投票の獲得票数第1位はGERBのトミスラフ・ドンチェフ候補(108,321票)、第2位は「検閲のないブルガリア」のニコライ・バレコフ候補(46,538票)、第3位は改革派ブロックのスヴェトスラフ・マリノフ候補(39,173票)となった。なお、BSPで選択投票により第1位となったモムチル・ネコフ候補は34,121票を獲得し、スタニシェフ候補の28,029票を上回った。

(2) 欧州議会選挙後の各党の反応

◆BSP

▶25日深夜、BSPのスタニシェフ党首は、国立文化宮殿(NDK)での記者会見において、厳しい選挙であり、結果はBSP及び「ブルガリアのための連合」を失望させるものとなった、また、欧州議会における社会党勢力の結果も予測を下回るものとなった、と述べた。同党首は、BSPはGERB及びBSPの票を「盗み」結果としてGERBを助けたABR(ABV)(注:パルヴァノフ前大統領によるBSPの別勢力)という2つの勢力と戦ったが、詳細な分析は最終結果が判明してから行う、と述べ、現政権のBSPとMRFが合計8議席を獲得したのに対し、野党の右派勢力(GERB及び「改革派ブロック」)は合計7議席である、と指摘した。

▶同党首は、個人的責任をとり辞任するのかと記者団に問われ、党にとって最善となることをするつもりである、と述べ、反対勢力の利益になるだけであるので自身は辞任しないつもりであることを示唆した。また、同党首は欧州議員の議席を辞退するのかと問われ、その質問には何度も答えた、と述べた。欧州委員に立候補するのかの問いには答えなかった。欧州議会選挙での結果を受け、BSPでは党首交代を求める声が挙がっている。

◆MRF

▶MRFのメスタン党首は、有権者はMRFを力強く支持した、もし政府の変更が必要であれば、それはMRFの幹部集団による決定となるだろう、MRFは権力の更なる増大を求めるつもりはない、と述べた。同党首は、望もうと望むまいと、ブルガリアは連立政権となることを運命づけられている、独立した多数派が政権につく時代は去った、と述べた。

▶同党名簿第2位のペエフスキ候補は、投票者及び自分を信頼してくれた党に感謝する、と述べ、欧州議会の議席を辞退し、ミハイロヴァ環境・水大臣に議席を譲ることを発表した。

◆GERB

▶25日夜、GERBのポリソフ党首はNDKでの記者会見を行わず、26日に会見を行うことを発表した。同党首は、現時点までの結果からは勝者はGERBのみである、「検閲のないブルガリア」のバレコフ氏にも祝辞を述べなくてはならない、と述べた。同党首は、ブルガリアの有権者はGERBが政権にいないなければならないということを表明した、GERBの得票がBSPより1票多いだけでもBSPは即座に政権を返上しなければならないと述べ、現政権の総辞職を要求した。

▶26日昼、GERBは記者会見を行った。ポリソフ党首は、早期の総選挙から改革派ブロックとのパートナーシップ、MRFや「検閲のないブルガリア」との協力まで、様々な可能性に対応する用意がある、と述べた。同党首は、連立の準備が

できていることを示唆した。同党首は、MRFとの連立可能性についての問いに対し、決してないとは言えない、と答えた。同党首は、GERBは独立した政権であるか否かにかかわらず、あらゆる種類の政権への用意ができている、と述べた。

◆「検閲のないブルガリア（BWC）」

▶25日、「検閲のないブルガリア」のバレコフ党首は、NDKではなく同党本部で記者会見を行うことを発表した。同党は改めて2、3ヶ月内の早期総選挙の実施を求めた。同党首は、現政権のまま冬を迎えることはブルガリアにとって冒険である、と述べた。また、同党首は、GERBの成功を祝い、スタニシェフBSP党首は当然の全面的失敗である、と述べた。

▶26日、バレコフ党首は10月26日の聖ディミタルの日に早期総選挙を行うよう求めた。また、同党首は、総選挙まで欧州議員にとどまる意向を示した。名簿第2位のジャンバツキVMRO副党首も総選挙の場合には欧州議員を辞任する可能性を示した。

（3）政府及び国民議会の動き

◆GERB提出による内閣不信任案の否決

▶16日、GERBは、現政権のエネルギー政策に関する内閣不信任案を国民議会に提出した。今回の内閣不信任案は、過去に提出された現政権の地域政策、治安政策、投資計画に対する不信任案（いずれも否決）に続いて4度目となる。提出された不信任案では、現政権のエネルギー分野におけるヴィジョン不足、規制機関（SEWRG）への政治的圧力、エネルギー分野における巨額の負債及び流動性の低さ、サウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画に関するエネルギー法の改正がEU法違反であること、電力料金を欧州議会選挙前に意図的に抑えていること、等が列挙されている。

▶オレシャルスキ首相は、エネルギー分野の状況は悪化しているわけではなく、改善も見られている、欧州議会選挙運動の最終局面で純粋な内政上

の議論が持ち出されるのは良い気がしない、と述べた。なお、GERBは、サウス・ストリーム計画にEU法が適用されないとするエネルギー法改正案はロシアの圧力によるものだと主張している。

▶30日、国民議会は、同内閣不信任案を否決した。本不信任案は93名（GERBの議員90名及び無所属議員3名）が賛成、116名（BSP及びMRFの議員）が反対し、否決された。なお、アタッカは決議に参加しなかった。オレシャルスキ首相は、決議後、政権の支持に対する謝意を述べ、現政権は引き続きエネルギー分野を改善させるために働く、と述べた。また、同首相は、当分野の状況は悪く、何年にもわたって問題が積み重なってきた、最大の誤りは2000年と2012年に行われた、と述べた。

◆欧州議会選挙後の政府の動き

▶29日、MRFのメスタン党首は、現国民議会において新たな政権を組閣する可能性を否定した。同党首は、「我々は、オレシャルスキ首相以外の首相を支持しない。もし同首相が内閣改造を提案したら、我々は同首相を支持する。我々が新しい首相の下での新しい政権を支持しないことは確実である。」と述べた。また、GERBのポリソフ党首は、唯一の賢明な解決法は総辞職、早期総選挙であり、対話はその後である、と述べた。

▶30日、オレシャルスキ首相は、BSP及びMRF間で協議の上、5～6名以内の内閣改造を予定していることを明らかにした。欧州議員に当選したミハイロヴァ環境・水相の他、アンドレエヴァ保健相、グレコフ農業・食料相、テルジエヴァ地域開発相、ダノフ投資計画相、ストヤノビッチ文化相の交代の可能性が報じられた。

（注：6月5日、MRFのメスタン党首は記者会見を開き、欧州議会選挙の結果を見れば現政権が任期を全うできないとの結論になるとして早期の総選挙を要求した。また、同10日、BSPのスタニシェフ党首は現政府の総辞職を要求し、早期総選挙に向けた動きが活性化している）

（4）政党の動き

◆GERBと「法秩序及び正義」

▶19日、GERBのポリソフ党首と「法秩序及び正義」のヤネ・ヤネフ党首は、ヤンボル市で、「早期総選挙を保障する勝利の達成に向けた右派の結束のための合意」に署名した。ヤネフ党首は、オレシャルスキ政権及びスタニシェフBSP党首の支配を望まない者は現政権の唯一の敵対勢力であるGERBに投票すべきである、と述べた。

◆GERB議員の同党追放

▶22日、ダニエル・ゲオルギエフ議員は、過去数日間の不適切で無責任な行動を理由としてGERBから追放された。同議員は、19日、「検閲のないブルガリア」に参加するとしてGERBの議会会派を離脱したが、同日夕、撤回した。しかし、20日、同議員はブルガス市を訪問し「検閲のないブルガリア」のバレコフ党首の選挙運動に参加した。

（注：5月末時点の国民議会の議会会派は、GERB93名、「ブルガリアのための連合」83名、MRF36名、アタッカ23名、無所属5名となった。）

（5）その他

◆ドナウ河の洪水被害懸念

▶19日、ドナウ河沿いのヴィディンを訪問したヨフチェフ内相は、ドナウ河の水位上昇が数日内に脅威的水準となるとの懸念を退けた。同相は、23日頃に予想されるわずかな水位上昇に対して対策を行っている、ヴィディンの地方機関が管理しており、危機的状況を避けるため追加の堤防を設置している、と述べた。17日、スパソフ・ヴィディン県知事は、午前11時時点でヴィディンでの水位が過去24時間で100cm上昇し818cmに達したことから、特別対策本部の緊急会合を招集していた。

◆ツヴェタノフ元内相への実刑判決

▶29日、ソフィア市裁判所は、ツヴェタノフ元

内相に対し、同元首相がトドロフ・ヴェリコ・タルノヴォ市組織犯罪対策総局長への特別捜査機器の使用を拒否したことについて4年の実刑判決を言い渡した。

2. 外政

(1) ウクライナ情勢に関する動き

◆ウクライナ情勢に関する政府要人の発言

▶2日にウクライナのオデッサで発生した衝突を受け、3日、ヴィゲニン外相は、本件の徹底的な捜査を促した。同外相は、2日の衝突でブルガリア系住民の死傷者はいないが、外務省は状況を注視していく、と述べた。

▶ヴィゲニン外相は、5日から6日にかけてウィーンで行われた第124回欧州評議会閣僚委員会において、オデッサでの劇的状況について捜査を行うよう欧州評議会国際諮問パネルに申し立てた。

▶12日、プレヴネリエフ大統領は、広報部を通じて声明を発表し、「ドネツク州及びルハンスク州で行われた“住民投票”は国際法及びウクライナ憲法に違反しており、欧州で確立された法秩序を覆す試みである、これら（の住民投票）は不合法的な分離主義者グループによって運営されたもので、結果を認めることはできない。ブルガリアはウクライナの領土の一体性を支持する立場を表明しており、そのような行動は大統領選挙前に国内を不安定化させることを目的とした行動であると考える」と述べた。

(2) その他

◆ヴィゲニン外相：ギリシャ、ルーマニアとの第9回三国外相会合出席

▶7日、テッサロニキにおいて、ブルガリア、ギリシャ、ルーマニアによる第9回三国外相会合が行われた。現在、ブルガリアは黒海経済協力機構（BSEC）の議長国、ギリシャはEU議長国、ルーマニアは南東欧協力プロセス（SEECF）の議長国を務めている。

▶ヴィゲニン外相、ギリシャのヴェニゼロス外相、ルーマニアのコルラツェアン外相は、SEECF

やBSECを含む地域の組織及びフォーマットにおける定期的な意見交換や緊密な協力は地域の発展のために重要であるとの意見で一致した。また、三者は三国間関係について議論し、経済、貿易、国境協力、エネルギー分野、観光、地域インフラ、輸送、通信の他、不法移民及び汚職・組織犯罪対策、人身売買の側面における協力拡大に向けて協働することで合意した。また、三者は、ウクライナ情勢についても議論し、同国の主権及び領土一体性と、危機に対する政治・外交的解決の模索への支持を改めて表明した。三国ともウクライナ南部にマイノリティが居住しているため、彼らの人権及び安全保障についての議論も行われた。

▶同日、ヴィゲニン外相とヴェニゼロス外相は会談を行った。両者は、エネルギー供給多角化、エネルギー協力促進について議論し、アドリア海横断パイプライン（TAP）、ブルガリア・ギリシャ間のガス連結管、ギリシャ北部の液化天然ガスターミナルのプロジェクトが特に重要であると指摘した。

◆トルコ国境のフェンスは6月完成予定

▶8日の報道によると、トルコ国境のフェンスは4月27日までに全30kmのうち2,647mが完成し、6月の完成が予定されている。完成が遅れたのは、地形の困難さによる。本フェンスの建設には133名の兵士が従事している。

◆年初来の難民等の認定は約3,400名

▶8日の報道によると、2013年にブルガリアとトルコの国境で不法侵入者と特定された人数は11,158名だった。2014年は、これまでで593名となっている。7日時点でブルガリアの国家難民庁及び移民局の施設、施設外にいる難民は合計5,992名である。国家難民庁は年初から7日時点までの間で、3,418名に人道主義による滞在許可又は難民のステータスを付与している。

◆ヴィゲニン外相：EU・西バルカン諸国閣

僚会合出席

▶8日、テッサロニキにおいて、EU・西バルカン諸国閣僚会合が行われた。同会合は、EU議長国であるギリシャにより運営され、西バルカン諸国の欧州統合と、EU・西バルカン諸国間の輸送・エネルギー連結についての2つのセッションが行われた。

▶ヴィゲニン外相は、西バルカン諸国のEU統合プロセス開始10周年を記念する演説において、「EU加盟は外交政策の決定にとどまらず、国家が次世代に向けて、どの方向に進展していくかの選択である。ブルガリアは隣国として、常に西バルカン諸国の欧州統合を支持している。信頼を構築し、地域レベルでより多くのプロジェクトを実行することが、政治・経済的に安定した南東欧の将来を達成するのに必要である。」と述べた。

◆ロシア連邦交流庁長官のブルガリア訪問

▶8日、ロシア連邦交流庁のコサチェフ長官がブルガリアを訪問し、ミコフ国民議会議長と会談した。両者は、二国間協力及び議会外交の発展、ウクライナ危機について議論した。

◆プレヴネリエフ大統領：ドイツ訪問

▶8日及び9日、プレヴネリエフ大統領は、ドイツを訪問した。

▶8日、同大統領はドイツのガウク大統領と会談し、ウクライナ情勢を含む欧州の議題について議論した。また、同大統領は連邦議会議員と会談した。

▶9日、同大統領は、シュタインマイヤー外相等と会談し、より厳格な対ロシア制裁の可能性を排除しない、ロシアは緊張緩和に向けて動いていない、と述べた。

◆ミコフ国民議会議長：南東欧協力プロセス議会アセンブリーの開始セッション出席

▶10日及び11日、ミコフ国民議会議長は、ブカレストで行われた南東欧協力プロセス（SEEC）議会アセンブリーの開始セッションに出席

した。また、同議長は、ギリシャ、アルバニア、トルコのカウンターパートとも会談した。「ブルガリアのための連合（BSPを中心とする左派連合）」のルメン・ゲチェフ議員は、本アセンブリーにおいて、新たに設置された経済、インフラ及びエネルギー委員会の議長に選出された。

◆国防分野に関するナイデノフ国防相の発言

▶12日、ナイデノフ国防相は、ソフィア市での愛国者団体の会合において、ブルガリア軍とNATOとの間の技術的ギャップが拡大している、と述べた。また、同国防相は、国防省の予算では本問題に対処するのに不十分である、ブルガリア軍の再軍備及び近代化だけでも年間1.5億から2.5億レヴァの資金が必要である、と述べた。

◆アンドル欧州委員（雇用・社会問題及び統合担当）のブルガリア訪問

▶12日及び13日、ラースロー・アンドル欧州委員（雇用・社会問題及び統合担当）がブルガリアを訪問した。

▶12日、同委員はオレシャルスキ首相と会談し、若年・構造的失業、難民の統合、ロマ人の統合の他、将来の年金改革について議論した。また、同委員はミコフ国民議会議長と会談し、EUの社会的挑戦、労働市場、雇用・社会政策について議論した。

▶13日、EUファンド実施プログラム（OP）の年次イベントに出席した同委員は、次期期間の実施プログラムの計画は途上であるが、若年失業対策を優先事項としなければならない、ブルガリアで計画されている欧州社会ファンドは15億ユーロ以上となるだろう、と述べた。

◆第43回黒海経済協力機構参加国議会会合

▶12日から14日にかけて、アテネで第43回黒海経済協力機構参加国議会会合（PABSEC）総会が開催され、国民議会の代表団が参加した。会合では、「危機から復興へ：黒海地域における成長、雇用創出、社会結束に向けた新たな道作り」

と題する議論が行われた。

◆中国共産党政治局委員のブルガリア訪問

▶13日、オレシャルスキ首相は孫春蘭（Sun Chunlan）中国共産党政治局委員・天津市党委書記と会談した。同首相は、ブルガリアと中国との関係は良好かつ友好的であり、二国間協力はお互いの利益となると述べた。同首相と孫政治局委員は、インフラ、産業、農業、観光の各分野で潜在的な協力の余地があるとの点で意見が一致した。同首相は中国企業の対ブ進出・投資の誘致を強調し、ブルガリアは欧州と中国企業との橋渡しをしたいと述べ、中・東欧諸国及び中国（「中国プラス16」）イニシアティブにおける農業センターの本部誘致に立候補していると述べた。これに対し、孫政治局委員は、中国はブルガリアをEUにおける鍵となるパートナーと見てしていると述べ、中国と中・東欧諸国間の協力の重要性を強調した。

▶また、孫政治局委員一行はスタニシエフBSP党首、欧州社会党（PES）代表、ミコフ国民議会議長及び議会各委員会幹部と会談した。代表団一行は、中国・ブルガリア外交関係開設65周年記念切手と封筒を贈られた。

◆オレシャルスキ首相：イスラエル訪問

▶19日から21日にかけて、オレシャルスキ首相はイスラエルを訪問した。同首相には、ヴィゲニン外相、アンドレエヴァ保健相、グレコフ農相、ディミトロフ経済次官、ビジネス関係者が同行した。

▶19日、同首相はイスラエルのシャミル農業地方開発相と会談し、両国のビジネス・フォーラムを開会した。

▶20日、同首相は、同国のネタニエフ首相、リーベルマン副首相兼外相、エルサレム総主教テオフィロス3世と会談した。両首相は、2012年夏にサラフォヴォ空港で発生したテロ事件に関する両国間の捜査協力について議論した。

▶21日、同首相はペレス大統領と会談し、両国関係及び経済協力・投資の発展可能性について俯

瞰した。

◆オレシャルスキ首相：パレスチナ自治政府訪問

▶21日、オレシャルスキ首相はパレスチナ自治政府を訪問し、同政府のアッバース大統領、ハムダッラー首相と会談した。会談では農業、文化、貿易、産業等の協力の可能性について議論された。

◆洪水被害を受けたセルビア及びボスニア・ヘルツェゴビナへの人道的支援

▶21日、政府は洪水被害に見舞われたセルビアとボスニア・ヘルツェゴビナに対し、総額132,000レヴァの人道的支援を提供することを決定した。支援金はODA予算から支出される。人道的支援はテント、毛布、簡易式ベッド、本、ジャケット、ミネラル・ウォーター等の物資で提供される予定である。ポベヴァ副首相は、セルビアの主要発電所が洪水被害により稼働不能のため、同国はブルガリアに電力を要請している、と述べた。

◆オレシャルスキ首相、ヴィゲニン外相：イタリア訪問

▶23日、イタリアを訪問中のヴィゲニン外相は、モゲリーニ外相と会談した。両者は二国間関係、ウクライナ危機、EU-ロシア関係の発展、アドリア海経由パイプライン（TAP）、サウス・ストリーム・天然ガスパイプライン等幅広い分野について議論した。

▶28日、オレシャルスキ首相は、ローマでフランシス法王に接見した。同首相にはヴィゲニン外相、ストヤノビッチ文化相、ゲオルギエヴァ青年・スポーツ相が同行した。また、同首相は、イタリアのレンツィ首相と会談した。オレシャルスキ首相は会談後、イタリア政府はサウス・ストリーム計画を強力に支持している、と述べた。（注：同首相とレンツィ首相との会談は22日に予定されていたが、前日夜になって先方の都合により延期されていた。）

経 済

1. マクロ経済

◆2014年第1四半期の輸出は約7%減少

▶12日の国家統計局の発表によると、2014年第1四半期の輸出は95億レヴァであり、前年同期比6.9%の減少となった。第1四半期の輸入は117億レヴァであり、前年同期比0.3%の増加となった。また、第1四半期の貿易収支は21.8億レヴァの赤字となり、前年同期比で7.4億レヴァ増加した。

◆4月は前月比0.3%のインフレ

▶13日の国家統計局の発表によると、4月のインフレ率は前月比0.3%となった。また、年初比でマイナス0.5%、前年同月比でマイナス1.6%となった。

◆2014年度第1四半期のGDP成長率は前年同期比1.1%

▶15日発表の国家統計局の暫定データによると、2014年度第1四半期の名目GDPは159億1,800万レヴァであり、前年同期比1.1%、前期比0.2%の成長となった。また、GVAは135億8,600億レヴァであり、前年同期比1.8%、前期比0.3%の成長となった。

◆2014年第1四半期の失業率は13%

▶15日発表の国家統計局のデータによると、2014年第1四半期における失業者数は約433,000人であり、失業率は13.0%となった。失業率は前年同期比で0.8%減少した。女性よりも男性の失業率が減少しており、男性は1.2%の減少に対し、女性は0.2%の減少にとどまった。1年以上の長期失業者は254,800人であり、全失業者数の58.8%(前年同期比で3.8%増)となった。

◆2013年度対ブルガリア投資は10.9億ユーロ

▶15日、ストイネフ経済・エネルギー相は、2013年の対ブルガリア投資は総額10.9億ユーロとなり、2012年の総額10.7億ユーロを上回った、と述べた。

▶同相は、経済特区運営会社(注:経済・エネルギー省傘下の国営企業)は経済特区の環境が優れているため発展していきだろうと述べ、その運営への満足を示した。当運営会社は国内に8つの経済特区(ボジュリシテ、テリッシュ、ブルガス、カルロボ、ヴァルナ西、ルセ、ヴィディン、スリーヴェングラット)を有しており、総面積は660万㎡である。一部の経済特区は設計の段階にある。同相及び当運営会社のネノフCEOは、ブルガス、テリッシュ、ボジュリシテの経済特区では今後数年間に1.5億レヴァ及び1,650名の雇用を生み出すだろうと述べた。

◆2011-2013年の平均寿命は74.5歳

▶16日の国家統計局の発表によると、2011-2013年の期間におけるブルガリアの平均寿命は74.5歳となり、前期間(2010-2012年)比で0.5歳の増加となった。男女別の平均寿命では、男性71.0歳、女性78歳となっている。

◆4月末時点の財政赤字は8.6億レヴァ

▶31日の財務省の発表によると、4月末時点の連結財政計画予算は8.6億レヴァの赤字となった。赤字の内訳は、国家予算が4.5億レヴァ、EUファンドが4.1億レヴァとなっている。なお、前年同月時点の赤字は2.9億レヴァだった。4月までの年初4ヶ月間の歳入は94.5億レヴァであり、前年同期比1.8%の増加となった。一方、歳出は103.2億レヴァであり、前年同期比7.8%の増加となった。また、4月末時点の財政準備金は約60億レヴァとなった。

2. 経済政策, 産業

(1) 電力関連の動き

◆送電会社の許認可剥奪問題を巡る動き

▶14日、SEWRCのポエフ委員長は、2008-2012年の期間における3つの送電会社の監査の結果、2,700件近くの行政手続違反が見つかった、と発表した。これを受け、SEWRCは罰金を課す違反を決定する予定である。同委員長は、送電会社に対する罰金の額は最低5,000万レヴァとなるだろう、と述べた。なお、最も多い違反は、電力メーターの交換に関するものである。また、供給電力の質の悪さ、消費電力量を超えた使用電力の計算についての違反も含まれる。また、今回の監査では、送電会社による計8.18億レヴァもの不当な費用の使用が発表された。なお、同委員長は、今回の発表と欧州議会選挙には何の関連もない、と述べた。

◆ブルガリアの電力料金はEU内最低

▶21日発表のユーロスタットのデータによると、ブルガリアの名目電力料金は全EU加盟国の中で最低となっている。ブルガリアの家計は2013年後半、100kWh当たり8.8ユーロを支払っているが、EU平均は100kWh当たり20.1ユーロである。しかし、購買力平価に基づき計算した場合は、ブルガリアの電力料金は19.7となり、EU平均の20.1に近づく。

▶ユーロスタットによると、ブルガリアの電力料金は前年比8%低下している。電力料金はエストニア(22%の増加、100kWh当たり13.7ユーロ)、ギリシャ(20%の増加、同17ユーロ)、ルーマニア(17%の増加、同12.8ユーロ)で増加しており、キプロス(15%の低下、同24.8ユーロ)で低下している。なお、電力料金はデンマーク(同29.4ユーロ)及びドイツ(同29.2ユーロ)で高くなっている。

◆国家エネルギー・水規制委員会が国営電力公社に長期電力購入契約の再交渉を要求

▶29日、国家エネルギー・水規制委員会(SEWRC)は、国営電力公社(NEK)に対し、2

001年6月13日に締結されたマリツァ・イースト1及び3火力発電所との長期電力購入契約を再交渉するよう求めることをウェブサイトを発表した。SEWRCは、マリツァ・イースト1及び3火力発電所との契約を改定し、NEKが購入する電力料金をそれぞれ20%及び30%引き下げ、同火力発電所の発電量の一部を自由市場で販売するようにすべきであると述べている。また、SEWRCは、再生可能エネルギー業者から購入する電力の年間上限を国内の総電力使用量に基づいて同機関が設定できるよう、経済・エネルギー大臣は再生エネルギー法の改正を提案すべきである、と述べた。SEWRCによると、本長期電力購入契約は、市場競争に関するEUの要求事項と相容れない。

(2) 非EU諸国との関係

◆グレコフ農業相の中国訪問

▶9日、中国を訪問中のグレコフ農業・食糧相は、中国農業省との会談において、ブルガリアが第9回中・東欧諸国-中国農業フォーラムのホスト国となることを提案した。本フォーラムは、従来、中国の安徽省で「16+中国」のフォーマットで毎秋開催されており、今回、ブルガリアが初めて中国外での開催を申し出た。また、両国は、中国が中・東欧諸国に設立を希望している農業協力センターの設立についても議論した。

▶今回の訪問中にグレコフ農業相は中国側と、VMZソポトの工場で中国のトラクターの組み立てを行うことで合意したが、これらは欧州向けに輸出される予定である。また、グレコフ農相及びVMZソポトのマノロフ代表取締役は、中国の農業・建設機械の代表的製造会社であるLAVOL社の代表者と面会し、両者は、5月末までに中国側の代表団がブルガリアを訪問することで合意した。

▶また、グレコフ農業相は、李上海市農業委員会ディレクターと面会し、ワイン醸造、酪農、タバコ製造において両国間の協力を促進する必要性について議論した。

◆中国との観光分野の覚書の署名

▶28日、外務省は、ストイネフ経済・エネルギー相が中国の国家観光局との間で覚書に署名したと発表した。同覚書は、ブルガリア経済省と中国の国家観光局間の観光分野における協力関係を深めることを目指している。ストイネフ経済相は、「観光分野における中国との接触をレベルアップし、関係を強化したい。自分は中国側の旅行者とブルガリア側のビジネス代表者向けのセミナーが所期の成果を生む出すことになる」と確信している」と述べた。

(3) エネルギー関連

◆ロシアとブルガリアのコンソーシアムがブルガリアでのサウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画の建設業者に選定

▶27日、サウス・ストリーム・ブルガリアのインコフ取締役は、記者会見において、ストロイトランスガス・コンソーシアム（ロシア・ブルガリア企業連合）がブルガリアでのサウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画の建設業者に選定された、と発表した。本入札手続きは昨年12月に開始し、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、ドイツ、インド、イタリア、ロシア、スイス、日本からの全11企業が参加していた。

▶同取締役は、同コンソーシアムは、ロシアのストロイトランスガスとブルガリアのガスプロジェクト・ユグ合弁会社から構成されている、と説明した。なお、ストロイトランスガスはロシア及びその他諸国で石油・天然ガスパイプラインの建設に関して豊富な経験を有しており、ガスプロジェクト・ユグ合弁会社はグラブボルガストロイ、プロミシュレノ・ストロイテルストヴォ・ホールディング、テクノエクスポートストロイ、ポンストロイエンジニアリング、PSTホールディングといったインフラおよび民間部門の建設に経験を有する企業によって設立された。約110のブルガリアの組織が下請業者となる予定であり、本計画に関与する人員は合計7,500人程度になる見

込みである。

▶ロシアのガスプロムのチュグノフ・プロジェクトマネジメント局長は、本計画の成功にとって最も重要なことのうちの一つは良い建設業者である、そのため我々はブルガリア・エネルギー・ホールディング（BEH）と、一つに統合された建設業者を有することに合意した、と述べた。ガスプロムは、記者団から落札額を問われ、それは秘密情報である、パイプラインの値段には設備の輸送に関する契約も含まれ、それらの契約はまだ全部締結されていない、ブルガリアにおけるサウス・ストリーム計画の費用は最後の契約が締結されるまで発表されない予定である、と述べた。

◆サウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画に関するオレシャルスキ首相とバローゾ欧州委員会委員長との会談

▶27日、オレシャルスキ首相とバローゾ欧州委員会委員長は、ブリュッセルにおいて、南東欧諸国のエネルギー安全保障及びブルガリアの天然ガス輸入への完全依存について議論した。また、両者はサウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画についても議論した。同首相は同委員長に対し、ブルガリアはエネルギー法改正法案が国民議会の第二読会に進む前に（注：同改正法案は4月4日に第一読会を通過した）欧州委員会側のコメントを考慮に入れる用意ができていて、国内法はEU法に完全に沿ったものとなる、と説明した。（注：ブルガリア政府はオフショア部分のパイプラインはEU規則の適用対象とならないと主張している）同首相は、同委員長が本計画はEU第三次エネルギーパッケージに完全に沿っている必要があると改めて強調したことを付言し、建設業者の選定手続きの進め方についてのコメントが来ることも予想される、と述べた。

▶同日、同委員長は、同首相に対し、欧州委員会はブルガリアがサウス・ストリーム計画に関して行った合意がEU規則違反であるとして行動を起こす意図があることを伝えた。

▶29日、プレヴネリエフ大統領は両者の会談に

ついて、サウス・ストリーム計画がEU規則に従っていると政府が考えるのであれば、政府は国民に対し明確に説明することを期待する、とコメントした。

(注：6月8日、オレシャルスキ首相は、サウス・ストリーム計画は欧州委員会からの全てのコメントが解除されるまで一時凍結する、と発表した)

◆EUの欧州エネルギー安全保障戦略におけるサウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画の位置づけ

▶28日、欧州委員会は、欧州エネルギー安全保障戦略に関する文書を発表し、その中で、「サウス・ストリーム計画はEU法に完全遵守していることが確認され、EUのエネルギー安全保障上における優先事項に照らして再評価されるまで延期されるべきである」と指摘した。

(4) その他

◆ローズ製品の輸出

▶7日の報道によると、ブルガリアはローズ酒、ローズジャム、ローズラキヤ(バラの蒸留酒)、ローズブランデーを輸出しており、これらの製品は外国の消費者に人気がある。バラ製品の主な市場は日本、米国、西欧である。日本市場向けの新製品であるローズヨーグルトもある。

▶カザンラク地域のバラ生産者であるフィリップ・リシチャロフ氏は、ローズジュースやローズジャムのようなブルガリアの市場では知られていない製品が日本やその他の外国市場に輸出されている、と述べた。今年のローズオイルの価格に大幅な変更はないと見られている。通常、ローズオイルはキログラム3000~5000ユーロで販売されている。

◆第2ドナウ架橋の鉄道開通

▶10日、ブルガリアのヴィディンとルーマニアのカラファトを結ぶ第2ドナウ架橋(新欧州橋)の鉄道が開通し、最初の列車がヴィディンを出発した。ヴィディンでの公式セレモニーには、キロ

フ運輸・IT・通信次官、ルーマニアのマタケ運輸次官、スパソフ・ヴィディン県知事、国民議会議員等が出席した。ヴィディン、カラファト、クライオヴァを結ぶ鉄道は、ルーマニアの2つの列車により運行される予定である。スパソフ県知事は、この橋が昨年6月中旬に開通して以降、41万以上の車両が通過した、と述べた。また、マタケ次官は、この橋は両国にとって戦略的重要性のあるプロジェクトであり、両国の協力関係を強化するだろう、と述べた。

◆4月のブルガリア訪問外国人は3.7%増

▶27日、国家統計局は、4月にブルガリアを訪問した外国人は48万人以上で前年同期比3.7%の増加となったと発表した。ハンガリー、ドイツ、イタリア、フランス、オーストリア、英国及びギリシャ等EU諸国からの訪問者が多くなっている。なお、4月における観光目的の訪問は前年同月比7.2%増加した。

▶4月に外国を訪問したブルガリア人も32万人以上で前年同期比4.6%の増加となった。スペイン、英国、チェコ、ポーランド、セルビア、イタリア、ギリシャ及びトルコへの訪問が多くなっている。

◆ブルガリア東部に30万のロシア人が居住

▶28日、ヴァルナ市のロシア領事館は、ブルガリア東部(ヴァルナ市、ドブリッチ市、ブルガス市、スリヴェン市、ヤンボル市)では30万人のロシア人が居住しており、50万件の私有不動産をロシア人が保有している、と発表した。

◆米エネルギー企業シェブロンがブルガリアから撤退

▶29日の報道によると、米エネルギー企業シェブロンがブルガリアから撤退する。同社は2011年にシェールガス探索許可を得ていた。しかし、その後、ブルガリア政府がシェールガス探索及び採掘を禁止したため、活動が一時停止されていた。

=====

我が国との関係

◆土井国土交通大臣政務官のブルガリア訪問

▶4月29日から5月1日にかけて、土井国土交通大臣政務官がブルガリアを訪問した。同大臣政務官はファンダコヴァ・ソフィア市長、ドゥネフ国民議会地域政策・地方自治委員会委員等と会談し、下水道及び防災分野における協力について意見交換を行った。

◆ポポヴァ副大統領の日本訪問

▶22日から26日にかけて、ポポヴァ副大統領は日本を訪問した。今回の同副大統領の訪日は、両国の外交関係再開55周年の機会を捉えたものである。

▶23日、同副大統領は安倍内閣総理大臣を表敬訪問した。両者は二国間の新たな協力分野としてイノベーション、農業ビジネス、安全保障

を挙げた他、特に中小企業間の協力の重要性を強調した。

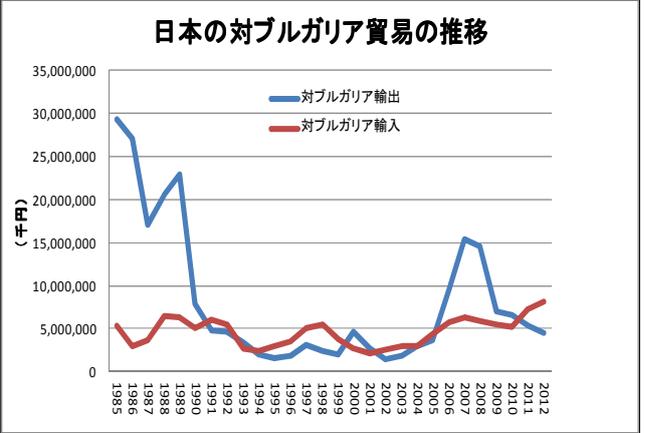
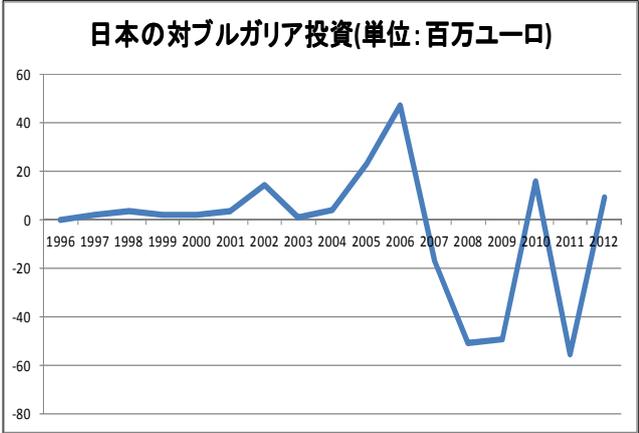
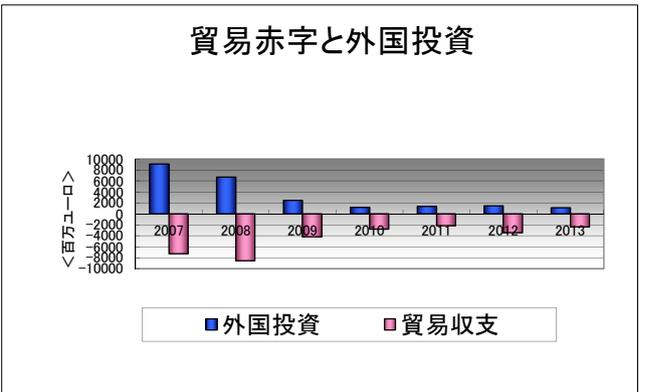
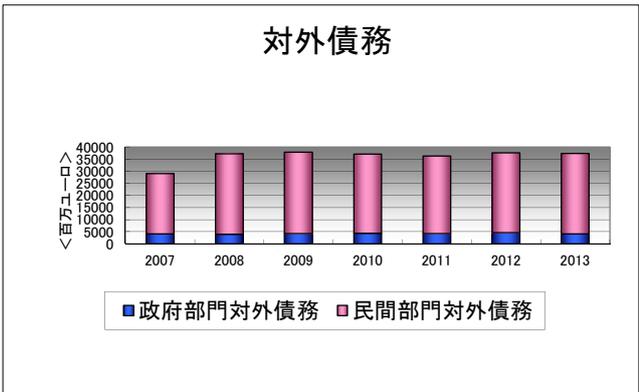
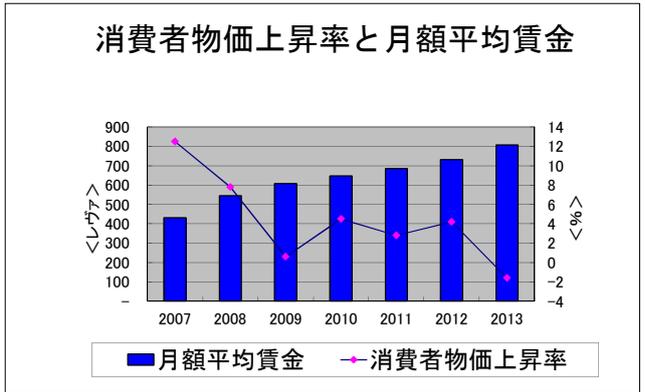
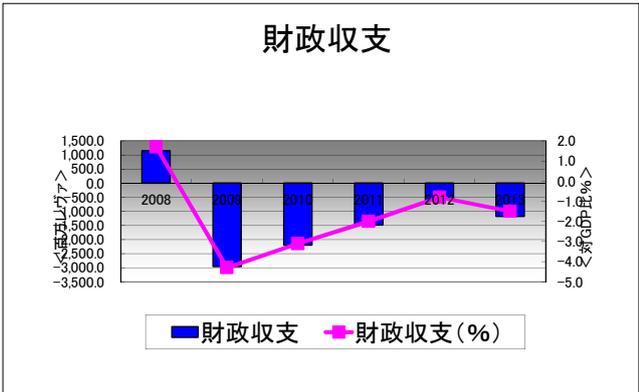
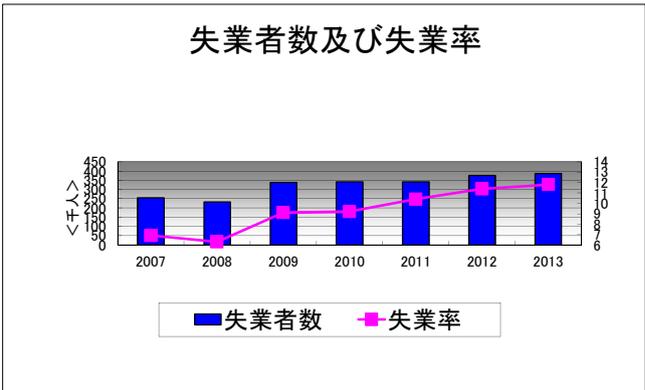
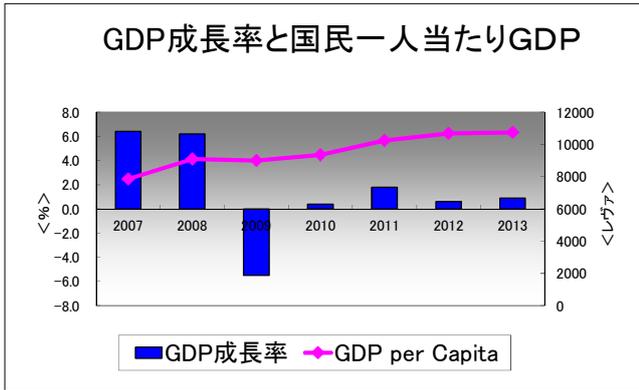
▶同副大統領は、伊吹衆議院議長及び山崎参議院議長との会談を行った他、参議院ブルガリア友好議員連盟との夕食会に出席した。また、同副大統領は皇太子殿下に接見した。同副大統領は明治大学で講演を行った他、ブルガリアの文化教育・スラブ文字の日にあたる24日には子供絵画展のオープニングに出席した。

ブルガリア内政・外交の動き（5月）

在ブルガリア大使館

1（木）	メーデー
2（金）	行政機関の休日
3（土）	
4（日）	
5（月）	行政機関の休日
6（火）	聖ゲオルギの日
7（水）	☆ヴィゲニン外相：ギリシャ、ルーマニアとの第9回三国外相会合出席（於：テッサロニキ）
8（木）	☆ヴィゲニン外相：EU・西バルカン諸国閣僚会合出席（於：テッサロニキ） ☆プレヴネリエフ大統領：ドイツ訪問（～9日） ★コサチェフ・ロシア連邦交流庁長官：ブルガリア訪問
9（金）	☆グレコフ農業相：中国訪問
10（土）	☆ミコフ国民議会議長：南東欧協力プロセス（SEECOP）議会アセンブリー開始セッション出席（於：ブカレスト）（～11日）
11（日）	
12（月）	★アンドル欧州委員（雇用・社会問題及び統合担当）：ブルガリア訪問（～13日）
13（火）	★孫春蘭（Sun Chunlan）中国共産党政治局委員：ブルガリア訪問
14（水）	
15（木）	
16（金）	●GERBによる4回目の内閣不信任案（エネルギー政策の失敗に関するもの）の提出
17（土）	
18（日）	
19（月）	☆オレシャルスキ首相：イスラエル訪問（～21日）
20（火）	
21（水）	☆オレシャルスキ首相：パレスチナ自治政府訪問
22（木）	☆ポポヴァ副大統領：日本訪問（～26日）
23（金）	☆ヴィゲニン外相：イタリア訪問
24（土）	
25（日）	●ブルガリアにおける欧州議会選挙の実施
26（月）	
27（火）	☆オレシャルスキ首相：ブリュッセル訪問（バローゾ欧州委員長との会談）
28（水）	●中央選挙管理委員会が欧州議会選挙の最終結果を発表 ☆オレシャルスキ首相：イタリア訪問
29（木）	●ツヴェタノフ元内相に対する実刑判決の言い渡し
30（金）	●中央選挙管理委員会が17名の当選確定議員リストを発表 ●国民議会は、16日に提出された内閣不信任案を否決 ●オレシャルスキ首相が内閣改造の予定を発表
31（土）	

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行)



ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

< GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1
GDP成長率 (%)	6.2	-5.5	0.4	1.8	0.6	0.9	1.4
GDP per Capita (BGN)	9,090	9,007	9,359	10,248	10,689	10,744	-

< 財政収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2013Q1	Q2	Q3	Q4
財政収支 (million BGN)	1,156.7	-2,960.6	-2,197.9	-1,491.6	-604.4	-1,177.7	391.9	-135.7	-189.7	-1226.6
財政収支GDP比 (% of GDP)	1.7	-4.3	-3.1	-2.0	-0.8	-1.5	0.5	-0.2	-0.2	-1.6

< 失業者数及び失業率 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr
失業者数 (千人)	232	338	342	342	376	386	401	401	399	387
失業率 (%)	6.3	9.1	9.2	10.4	11.4	11.8	12.2	12.2	12.2	11.8

< 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr
消費者物価上昇率 (%)	7.8	0.6	4.5	2.8	4.2	-1.6	-0.2	-0.4	-0.2	0.3
月額平均賃金 (BGN)	545	609	648	686	731	808	794	780	813	-

< 対外債務 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar
政府部門対外債務 (million EURO)	3,935.9	4,208.3	4,326.9	4,205.0	4,578.9	4,062.4	4,080.9	4,090.3	4,089.4
民間部門対外債務 (million EURO)	33,310.6	33,608.2	32,699.4	32,089.8	33,201.2	33,276.5	33,332.6	33,583.9	33,805.8

< 対内直接投資と貿易収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar
対内直接投資 (million EURO)	6,727.8	2,436.9	1,151.2	1,330.2	1,070.3	1,092.4	72.8	89.9	88.9
貿易収支(FOB) (million EURO)	-8,597.7	-4,173.9	-2,763.7	-2,156.1	-3,460.3	-2,353.3	-338.0	-539.1	-825.6
輸出(FOB) (million EURO)	15,204.0	11,699.2	15,561.2	20,264.3	20,770.2	22,228.2	1,584.8	3,232.7	4,853.4
輸入(FOB) (million EURO)	23,801.7	15,873.1	18,324.8	22,420.4	24,230.4	24,581.5	1,922.8	3,771.9	5,679.0